

地域通貨 「未杜」とは

主催団体：NPO「丹波まちづくりプロジェクト」

展開の地域：丹波市及び周辺地域

地域通貨名：「未杜」

未杜は「未来の杜」を意味する。

組織：事務局の運営スタッフは5名。

目的と対象：対象となるコミュニティーは丹波市で、この地域の旧住民と新住民がその区別なく、すべてが信頼と助け合いを広げ昔の地縁、血縁を超えて古い慣習などの縛られない人と人の新しい関係のネットワークをつくること。

発足の経緯：理事長の赤井さんが社会教育関係の仕事の中から、農村地域を新しく変えていく必要があると有志を募る。新しいコミュニティーを創造すべく有効な手段として地域通貨が最適であると考えた。人権、環境、共生をモットーに幅広く「未杜」の流通を呼びかけています。

実施時期：2001年7月 発足

未杜交換方法：

- ・事務局に「提供できるサービス」「して欲しいサービス」を登録、会費は1000円
- ・事務局から500未杜とサービスリストを受け取る。
- ・必要なときにサービスリストで、して欲しいサービスを提供できるメンバーを探して連絡し、依頼する。質問などがあれば事務局スタッフに尋ねる。
- ・依頼したサービスを受け、終了相手に未杜を渡す。「未杜づくり」に、日時、内容、価格を記録する。
- ・未杜は通帳式であり、提供がなくても残高がマイナスでも利用可能。

その他：通常の個人対個人の使用以外に、エコ石鹸を作っている団体も加入している。説明会と会員交流の場として、毎月1回、30日を「未杜の日」として事務局を解放している。

仕組みは託児、お年寄りの移送や話相手、時計の修理……。会員は「できること」と「して欲しいこと」を登録。何かをすればプラス、してもらえばマイナスをカードに記入する。年1回、全員が集まり決済。赤字が膨らめば農作物などを買ってもらう。黒字や赤字があってもそこでリセットする。

利益追求ではなく、信頼を軸にモノやサービスの自発的な交換。そこから自立した個人のネットワークが広がる。

地域通貨だと、潜在能力が存分に引き出せ、相手に喜んでもらえる。「円」だと多い少ないで気を使って、ギスギスして楽しくないのでは。

以上「未杜」ホームページ、神戸新聞及び、事務局による。

わくわく人権塾 (ハーモニー)

人はみんな自由・みんな平等です。そして、一人ひとりが共に生きる仲間です。

人権が尊重されるすてきなまちをみんなでつくりたい。



わくわく人権塾 (ハーモニー)



1. 目的・活動経緯

私たちの目的・テーマは「人権感覚豊かなまちづくり・人づくりを目指して」「現在社会における人権問題について学ぶ」ことでした。

この目的に沿って、公開フィルム講座と今まで研修してきた中で、日常生活を人権の視点で見つめまとめることにしました。また、他の塾との交流や連携による活動として「はり子ども夢フェスタ」を開催、町内全小学校の児童を対象に初めて塾連絡会による行事ができたことでした。

公開フィルムフォーラムは「明日への彩り」を中央公民館視聴覚室で開催27名が参加しました。誤解が偏見をつくり、偏見が差別を生んでいないか、世間体意識が人権を損なっていないか、日常の生活の中で起きやすい問題でもある。参加者に正しく理解していただき、明るい地域社会づくりに役に立ってほしいことを願っています。

わくわく人権塾は、平成12年度に発足して5年目をむかえました。自分たちの考えたテーマをもとに、研究、活動、提言等を行ってきました。今年度は今までの研修成果のまとめを発表することに塾会議で意見が一致し、どんなまとめにするか意見交換する中で生涯学習課と相談をし、播同協研究大会で発表することになり「人権朗読劇」で発表することにしました。

内容については、解りやすくすること、時間的な制限もある。表現についても会場の参加者に良く見えるものにする等、制約が多く難問題ではありますが、知恵と努力を出し合い少しでも良い内容にすることに決めた。また、特に注意して普段使っている言葉で簡単明瞭

に表現することにもした。台本作りは積んで崩し、崩しては積みと作業は思うように進まない焦りもでてきた。塾会議を重ねること14回、時間を忘れたように作業は進められた。全員よく頑張ったと思う感謝しています。

その結果、簡単で明朗な「人権朗読劇」の台本が出来上がった。しかし、この内容を如何に舞台上で観客に魅せるかが課題となる。舞台道具が必要となる。少ない費用でどのような舞台道具を作るか、塾生は頭を痛め知恵を出したお陰で、立派な小道具も完成でき舞台でのリハーサルも終えた。播同協研究大会での発表内容の評価は大会に参加して下さった皆様方をお願いしたいと思ひます。

播磨ゆめづくり塾として各塾の情報交換・交流が欲しいと思ひていましたが、今年度から塾連絡会ができ情報が得やすくなった。塾連絡会で企画・協働事業もできました。町内全小学校のご協力で小学児童に多く参加を得て「第一回はり子ども夢フェスタ」が開催され好評であったと思ひます。地域でボランティア活動をしている方々や事務局各位の協力のお陰と思ひています。ありがとうございました。

「人権とは」人間が人間らしく生きることではないか、何時の時代でも同様に、人権感覚を大切にしながら「まちづくり・人づくり」が必要と痛感しています。

(塾長 塚崎 猛)



2. 活動の記録

〔第1回〕

日時 2004年4月8日(水) 13:30～16:00
場所 中央公民館
内容 ・平成15年度の活動報告、反省と今後について
・塾続行について
・平成16年度のテーマとして「人権感覚豊かなまちづくりをめざして」
・平成16年度の事業計画について
定例会は、毎月第1金曜日の午前9時30分からとする。

〔第2回〕

日時 2004年5月7日(水) 9:30～13:00
場所 中央公民館
内容 ・5月18日の審査会にむけて
・事業内容について話し合い
・公開講座、フィルムフォーラムの日程と町広報7月号に公開講座として記載するため内容調整
・ビデオ鑑賞「夢の約束」とするも5月14日に再度鑑賞することになる

〔第3回〕

日時 2004年5月14日(水) 12:00～15:30
場所 中央公民館
内容 ・公開講座に向けてビデオ鑑賞「雨あがり」「明日への彩り」の2本
・「明日への彩り」に決定する

〔第4回〕

日時 2004年5月29日(土) 16:00～17:30
場所 中央公民館
内容 ・審査会を受けて、事業内容・予算案の見直し

〔第5回〕

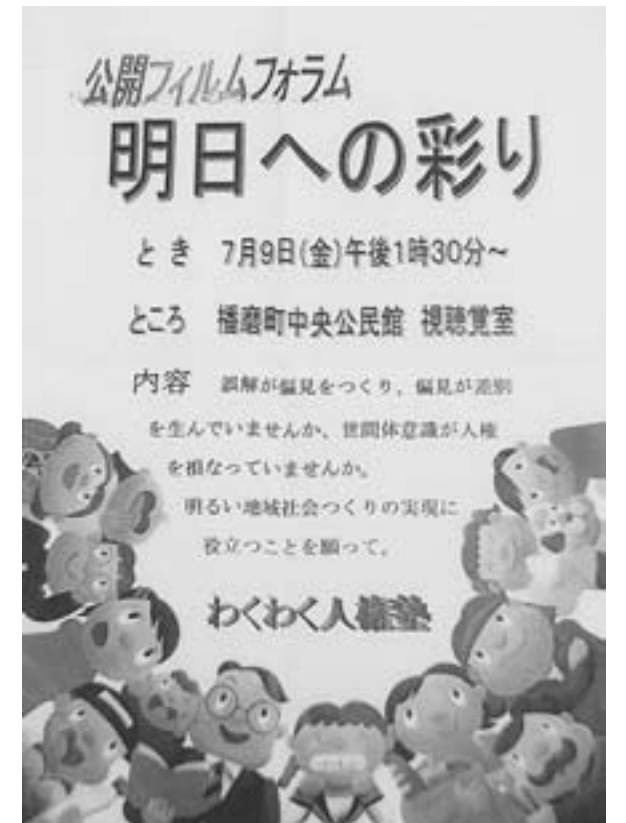
日時 2004年6月1日(火) 13:30～16:30
場所 中央公民館
内容 ・事業計画案、活動費の具体的な見直し

〔第6回〕

日時 2004年6月4日(金) 13:30～16:00
場所 中央公民館
内容 ・フィルムフォーラムのポスター作成
大6枚 小100枚
中央公民館、各コミセン

〔第7回〕

日時 2004年7月2日(金) 14:00～16:00
場所 中央公民館
内容 ・7月9日(金)のフィルムフォーラムの進行、役割について
当日13:00 集合、準備
13:30 開会あいさつ 主旨説明
13:40 「明日への彩り」放映
ビデオ鑑賞後、参加者に感想、コメントを依頼することにする



〔第8回〕

日時 2004年7月9日(水) 13:00～16:00

場所 中央公民館

内容 ・公開講座

フィルムフォーラム「明日への彩り」鑑賞後、感想、コメントの依頼

終了後、わくわく人権塾として、17年2月に開催予定の播同協研究大会の全大会で発表(内容は未定)を検討していく事となる。



フィルムフォーラム「明日への彩り」鑑賞後のアンケート調査について

アンケート用紙を前もってお渡ししておいて、ビデオ鑑賞後、記入して頂きました。集まった用紙は、

	男性	女性	
40歳代		1	
50歳代	1	7	
60歳代	2	13	
70歳代	2		
合計	3	23	26枚

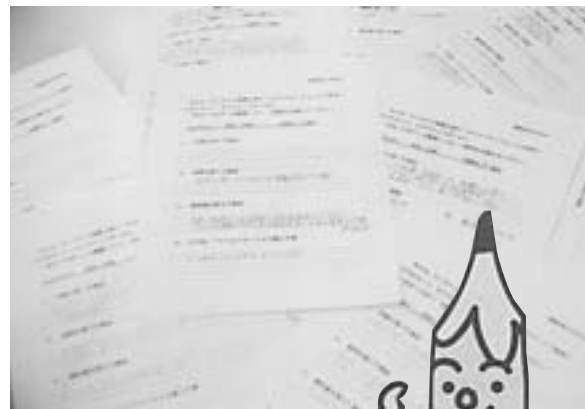
1. 印象に残る場面

- ・人の優しさが大変うれしく思った。
- ・赤ちゃん誕生で皆の心が一つになった事
- ・ゴミの出し方が乱雑すぎる。
- ・頭が良いだけでなく心が良い(きれい)
- ・国籍が違って同じ人間なので、偏見を持たない主人公に感動した。
- ・部落出身であることを告白する場面。
- ・最後に皆の偏見、わだかまりがなくなりよかった。

- ・当事者同志が話し合うところ。(現実には話し合うことが少ない)
- ・おばあさんの「世間体や古い因習にとられて人を差別してはいけない」という言葉

2. 疑問を感じた場面

- ・同和地区の方との結婚は、現実には非常にむずかしい様です。
- ・外国人というだけで偏見を持つこと。
- ・現実には映画の様なゴミの出し方はしていない。
- ・赤ちゃんが自分の子ではないのに結婚した男性の気持ちがわからない。
- ・人間性より見栄とか偏見が、先に立つ事
- ・父親の考え方が急に変わったのはおかしい。
- ・どうして自分が部落出身だという必要があったのか?
- ・東南アジア系の外国人に対する差別が多いのはなぜか?
- ・職場の日本人であんなに意地悪な人は、いないと思う。
- ・アパートの住人が部屋の窓から他人のする事をいちいち見ている。



3. 違和感を覚えた場面

- ・おばあちゃんを入院させ、その部屋を子どもに使わせている。
- ・主人公が部落出身だと知った時のまわりの人の態度や心の変化など。
- ・職場での外国人に対する扱い方。
- ・簡単に解決する様な事ではない事でも、映画だからうまく行きすぎる感じになったのも、仕方がないかなと思える所もあった。
- ・今の時代でも同和地区を意識するのか?
- ・外国人でも白人系は良くて、自分達と同じアジア系の人を差別的な目で見ている。
- ・両親の友人が差別的な発言をしている所

4. その他、感じた事

- ・日本人が持っている世間体意識や偏見に気づかされた。
- ・最近では差別とかあまりしていないと思う。孫たちもそんな事は知らないと思います。
- ・外国人差別問題がおこれば行動で示す。
- ・この頃は同和問題があまり取り上げられていないと思う。
- ・日頃何にも感じないで過ごしているので時々、こうして気づかされてもいい。
- ・映画を見て自分自身を振りかえった。
- ・フォーラムに参加してよかった。

以上のようなご記入を頂きました。同じような内容のものは一つにまとめました。



〔第9回〕

日時 2004年8月3日(金) 14:00～16:00

場所 中央公民館

内容 播同協研究大会での研究発表について意見交換

〔第10回〕

日時 2004年9月9日(木) 13:00～17:00

場所 中央公民館

内容 ・夢づくり塾連絡会の報告と意見交換
PR紙の校正、全戸配布について
塾の共催事業について

はりま町子ども夢会議、子供達の夢を話してもらったら...

はりま町の良い所、悪い所...等
グループ会議にして、少人数の意見を出しやすくする。

各塾より説明、問いかけが必要では。
・播同協研究大会に向けての内容検討
テーマ、タイトル、全体についての表現方法等について意見交換する。

〔第11回〕

日時 2004年9月18日(木) 13:30～16:00

場所 中央公民館

内容 ・播同協研究大会での発表内容について

朗読劇にしては?内容は?等々で話し合う

・宿題として各自、考えてくる。次回に意見をまとめる。

〔第12回〕

日時 2004年10月14日(火) 13:00～16:00

場所 中央公民館

内容 ・研究大会発表内容について話し合い
・人の誕生から高齢になるまで、ライフステージごとにまとめることになる。

〔第13回〕

日時 2004年10月25日(月) 13:30～16:00
場所 中央公民館
内容 ・研究発表、朗読劇のシナリオづくり
話し合い

〔第14回〕

日時 2004年11月8日(月) 13:30～16:00
場所 中央公民館
内容 ・研究発表、朗読劇のシナリオづくり
・ライフステージごとに、内容を具体的にしていく
・台本の読み合わせもする。

〔第15回〕

日時 2004年12月8日(水) 9:30～12:30
場所 中央公民館
内容 ・朗読劇の内容の見直しについて
生涯学習課、児玉先生に入っていた
だけアドバイスを受ける。内容はラ
イフステージごとに分ける。
おしつけになっていないか？
観客にヒントとして投げかけてい
く、結論を出さない。
ナレーションが大切である。



〔第16回〕

日時 2004年12月21日(火) 9:30～12:30
場所 中央公民館
内容 ・研究大会朗読劇の台本づくり
児玉先生のアドバイスを下に修正作
業をする

〔第17回〕

日時 2005年1月5日(水) 9:30～15:00
場所 中央公民館
内容 人権朗読劇について
・シナリオの見直し
・舞台小道具の準備



〔第18回〕

日時 2005年1月7日(金) 9:30～15:30
場所 中央公民館
内容 人権朗読劇について
・シナリオの見直し
・配役の決定
・舞台小道具の準備



〔第19回〕

日時 2005年1月25日(火) 9:30～12:30
場所 中央公民館
内容 研究大会に向けて練習
・セリフ合わせ、小道具の使い方
・立ち振舞いも合わせタイムを計る

〔第20回〕

日時 2005年2月1日(火) 9:30～12:30
場所 中央公民館
内容 研究大会に向けて練習
・小道具の使い方
・人の動き方
・セリフの間の取り方
・舞台の下見(テーブル等の配置につ
いて)

〔第21回〕

日時 2005年2月4日(金) 13:00～16:30
場所 中央公民館
内容 舞台でのリハーサル
・小道具の点検と使い方
・マイクの使い方等練習

〔第22回〕

日時 2005年2月5日(土) 9:30～15:00
場所 中央公民館
内容 播同協研究大会当日
特別報告として実践発表(人権朗読劇)
10時30分より舞台準備と舞台でのリ
ハーサル
・マイク、テーブル、人形等の配置確認
・動作の確認
14時より発表 約25分



〔第23回〕

日時 2005年2月8日(火) 9:30～12:30

場所 中央公民館

内容 研究大会での発表の反省

- ・観客の評価はとても解りやすく良かった。
- ・セリフもはっきりして、聞き取りやすかった。等々。

視察研修について

- ・日時 3月29日(火) 実施予定

今後の活動について

- ・自主的な活動を続けていく
- ・ゆめづくり塾として来期申請しては？

ゆめづくり塾連絡行事

- ・3月13日(日)
- ・「こども夢フェスタinはりま」に塾生も参加する。



〔第24回〕

日時 2005年2月28日(月) 12:30～15:30

場所 中央公民館

内容 今後の予定について

- ・3月13日(日) 塾連絡会による(子ども夢フェスタ) 当日参加について
- ・町外研修について
- ・16年度のまとめについて



〔第25回〕

日時 2005年3月13日(日) 8:30～12:00

場所 中央公民館

内容 子ども夢フェスタinはりま当日

- ・準備と実施
- ・子どもの夢は創造性があるといいな
- ・ボランティアの人たちもよく協力していただいた。



〔第26回〕

日時 2005年3月22日(火) 9:30～12:00

場所 中央公民館

内容 わくわく人権塾の活動まとめについて

- ・活動報告の内容について意見交換
- 大筋を決める
- ・塾生の感想文を作る。
- ・写真を準備する。

3月29日の視察研修については都合の悪い人が多く出たため中止とする。



塾生からの感想

前期のビデオフォーラムのアンケートの中にも「今の時代でも同和地区を意識するのでしょうか」とか「最近では、あまり差別はないように思う」という意見が、何枚かありました。差別はだんだん見えにくくなってきているけれど、まだ、かなり根強く残っています。アンケートの中にも「地区の人との結婚はむずかしいようです。」ともあり、まだまだ同和教育は必要だと強く感じました。

又どんなに勉強して、知識を深めていても日々実践し、差別を見抜く感覚をみがいていないと、さび付いてしまうように思います。

そういう意味からも後期の人形劇は塾生の皆さんの人権意識がいろんな所で出てきて、稽古をしていても、楽しく、充実した日々でした。良い仲間めぐまれ、あっという間の5年間でした。これからも、学習のあゆみはゆっくりでも、止める事なく続けて行きたいと思います。

(佐伯 映子)

「人権」を基本に据えたまちづくりをすすめていきたいと考え人権を考える塾として、人権をテーマに情報の収集、提供、情報をもとに子どもの人権(虐待、CAP)女性の人権(DV、蔑視)高齢者、障害者問題等々の学習活動を重ねてきました。5年をむかえ集大成としてこれまでの学んできたことを播同協研究大会で「人権朗読劇」として実践発表することになりました。

「家族、家庭」にスポットをあて、人が生まれてから成長し、年月を重ねていく暮らしのなかで何気ない言動のなかにある人権問題に視点をあてました。発表にあたってテーマ・シナリオ、役割、小道具づくりと準備を進めていくことがいっぱい。何度も話し合い練習を重ねて当日を迎えました。舞台上上がるまでは少し不安もあったが塾生10名のい

きもぴったり、心地よい緊張感のなか無事緞帳が下りた。会場の参加者の反応が気になったが心配は吹き飛んだ。「わかりやすく良かったよ」とほめていただいた。多くの時間を費やした分だけ達成感もひとしお。

様々な学習の場、学習の機会を得ることが出来有意義な塾活動であった。活動を通して関わって来た仲間感謝します。ありがとう。

(本谷かおる)

今年度の活動を振り返って、今年度の活動の中で一番印象に残っているのは、播同協研究大会で発表した朗読劇です。

社会集団の最小母体である「家族・家庭」にスポットをあて、子供の誕生から児童虐待、就職、結婚、高齢者までの人権問題を取上げて、各分野のシナリオを塾生で分担してわいわいガヤガヤと楽しい雰囲気の中で書き上げ、全員で読み合わせ修正を何度も繰り返してシナリオを完成させました。

その後、出演家族の人形を作り研究大会の日が迫ってくる中で、誰もが監督になり朗読劇の練習を繰り返し研究大会に臨みました。

研究大会終了後に、多くの人から良い内容で大変良かったと言われ、何度も集まっていた準備と練習をしてきましたが遣り甲斐を感じました。

何度も修正を加えた手作りの作品で、塾生の気持ちが皆さんに伝わったのではないかと思います。

(藤田 博)



今年度の播同協研究大会において、特別報告わくわく人権塾実践発表(人権朗読劇)に向かって、資料づくり、脚本づくり等、ああでもない!こうでもない!この方がいいかも…。何度も打ち合わせしながら、どうなる事かと思っていたが、案ずるより産むが易し。発表当日には、日頃の失敗は嘘のように、全員力を合わせて、立派に出来上がりました。

友人、知人から“解りやすくてとても良かったよ”と誉めていただき(上手口かも知れませんが)うれしく、やってよかったと思っています。

一つの目標に向かって幾度となく話し合い、とても忙しい思いはしたのですが、コミュニケーションがとれ、メンバー全員が参加することもでき、とても素晴らしい発表になりました。

何事も、コミュニケーションさえうまくできたら、世の中は「まああるく」治まるものだと思います。

誰もが、住みよい町になります様、チョットだけ後をふり返り、そして前を向いて進んでいきたい。

(安田 信子)

今年の播同協研究大会で、人形を使った朗読劇をすると、塾で決めました。

まず、シナリオ作りから始まりました。町発行の資料を基にして、暮らしの中から差別を見つめ、「なんでやろ?」との思いから入りました。

子どもの誕生、就職、結婚、老い、それぞれの場面での問題点を見てくださいる方々に、どう伝えるか、何度も何度も繰り返し、シナリオ作りを行いました。

次は人形作りです。誰が人物画を書くかとか、舞台装置はどうするか等、諸問題をクリアして、上演の運びとなりました。

当日は、中腰となり、人形を持ったり、台詞を言ったりと、舞台の上で這い回りました。

最後に大きな拍手を頂き、仲間と一つのことをやり遂げた、充実感を味わいました。友人もお世辞だろうけど、「良かったよ!」と言ってくれました。

私は、今回、日常の暮らしの中で起きる「差別意識」を見直す良い機会となったと思います。塾生の皆様、ありがとうございました。

(松本かおり)



本年度は、大きな二つの事業を計画実行しました。

まず、フィルムフォーラム「明日への彩り」です。時間や内容をメンバーでいろいろ話し合い打ち合わせを繰り返しました。

いわれのない差別が今なお存在しています。この映画はいろいろな差別の現状について考え、少しずつでもいいから真実を知って、それを認め合おうとした人たちのお話でした。タイトル通り最後はさわやかな気分でした。

次に人権朗読劇です。今までに私たちが、研修してきたことを播同協研究大会で発表しました。何回も何回も集まり、訂正をくり返しました。手作りの人形ができ上がった時は一同、大喜び! 台本も大変でした。

しかし、当日は会場の皆さんも真剣に聞いてくれた様子でした。大成功!

メンバーの知恵と協力と努力でこの一年も無事終わろうとしています。

(大路みどり)

私たちは年度当初の計画で、「前期後期に一つずつ行事を行う」を決めました。

前半は、公開のビデオフォーラムだったが、私にとっては、何と言っても後半の朗読劇が印象深い行事であった。

台本から人形づくりまで全員で手がけ、2月の播同協研究大会で発表することとなった。

台本づくりにどれ位の日数をかけたのだろうか。11月から始め、年末の慌ただしい時も、新年早々も厭わず、集まるたびに侃々諤々(かんかんがくがく)の議論だった。

多くの時間をかけた台本づくりは、楽しくもあり、また仲間の人権に対する思いの深さを知る充実した日々であった。

人形づくりは、人それぞれに知恵と工夫が生かされ、平素知ることの少ない日常生活を垣間見る思いで、楽しい時間だった。

セリフの稽古に入ってから、私たちの思いや考えが正しく伝えられるように、細かな手直しが続けられた。

立ち稽古は数回しただけだが、さすが本番に強い仲間たちで、当日は全員が落ち着いて発表できたと思う。

解りやすく共感できる内容だった。

人形の動きで誰の言葉なのか理解できた。

よく透る声で聞きとりやすかった。

等々の感想を後に聞き、私たちが練習中に一番気をつけていた事柄が評価されうれしかった。

一つのを共に作りあげることの楽しさ、素晴らしさを実感した思い出深い行事であったと、今振り返りながら思う。

(加田平靖子)

わくわく人権塾に参加してから、丸5年が過ぎようとしています。

いち日いち日が目まぐるしく、あっという間に過ぎていきました。

その間には、何人もの方々の経験や知識を

聞かせて頂いたり、教わったり、自分一人では到底出来ない事も体験させて頂きました。

仕事や家事や自分の好きな趣味をこなしながら忙しい毎を送る日々ではありますが、とても充実した期間でもありました。

年齢の差・男女や環境の違いがありながら一つの目標に向かって話し合ったり、作業をしたりの中で色々な意見が飛び交い、個性がぶつかります。

その中で、さすが5年間続いたグループです。笑いも交えながら、うま〜く納まっていくのです。

他人の意見を尊重し(ちょっと強引さも?)ながら、思いやりのある人たちに会えて、本当にラッキーでした。

16年度は播同協の特別発表に向けて、シナリオ作りや練習に重点が置かれ、5年間の締めくくりとなったような、気がします。

様々な人権を考え、問題提起をし、一人でも多くの人に共感してもらおう。

今、思います。この発表に全ての人権が含まれていたのです。

これまで本当にありがとう。素晴らしい仲間たち。

(藤田 成子)



自由に平等で幸せに生きる権利、人権感覚の豊かなまちは誰もが住み良いまち。そんなまちづくりを目指して、仲間と語り学びながら人権の感性を深めたくて、わくわく人権塾生になって5年が過ぎました。

住み良くなるために、いろんな制度が設けられてきました。それでも、健やかに育つことができなかつたり、幼い命が失なわれてしまつたりと悲しい事が毎日のように何処かで起きています。高齢者虐待も起きます。

わくわく人権塾では、その時の情報や新聞記事を話題によく話し合いました。

今ある制度を日々の生活に利用し、誰もが、住み良くなる工夫や努力ができることよいのと思います。

そんな、こんなで、わくわく人権塾では普

通の日常生活から見えてくる人権問題を劇にして、播同協研究大会で発表しようということになりました。

シナリオ、舞台道具などすべてが手作りで、何度も何度も集まり知恵を出し合い多くの時間を要しましたが、学んできた人権認識を確かめながらの作成作業は有意義な楽しいものでした。

当日、400名以上の人達の集う会場で、学習してきた仲間と共に発表できた達成感や充実しとても幸せな気分になりました。

私達の朗読劇を静粛に聴いてもらったことは、終了時の大きな拍手音と合わさって、何時までも心に残る、素敵な思い出になります。

みなさんありがとうございました。

(神吉 恵)

塾からの提言

人権に関する資料や情報を、提供したり展示できるコーナーがあり、そこに談話室が設けられれば、人権に対する関心が深まり、ふれあいが広がるのではないのでしょうか。

また、そのような場所で、身近な事柄を議論し、老若男女を問わず、人権感覚を豊かにし、その時々自分の思いを正直に語り合える仲間を増やしていきたい。

人と人とのふれあい、心のかよひあいの大切さに気づくことは、私たちの人生を豊かにするのではないのでしょうか。



人権問題のつながり



・人権の詩

しあわせいっぱい 生きていたい
自分ののぞむ しごとにつきたい
みんなのために なにかをしたい
あいする人と むすばれたい
にんげんらしく くらしたい
こうしたねがいが かなうこと
こうしたねがいが じゃまされないこと
それがにんげん



平成16年度

塾生名簿

キャストはりま塾

番号	氏名	番号	氏名	番号	氏名
塾長	福原 隆泰	10	三村 隆史		
1	本谷 かおる	11	毛利 豊		
2	神吉 恵	12	安田 信子		
3	門倉 敏子				
4	井元 春江				
5	大星 孝				
6	岸本 和也				
7	黒石 進				
8	塚崎 猛				
9	松本 かをり				